

第3回 松陰神社参道商店街 秋まつり（10月26日日曜日）に参加しました



松陰神社祭りでは、他では得がたい貴重な出来事を経験することができました。

例えば、神楽でエイサーを披露できること、主催の団体の方々に混じって神輿を担げたこと等です。小学生の頃までは、首里文化祭などで地域の人々と交流する機会が多くありました。しかし、中学生になると、学業で忙しくなったこと、新型コロナウイルスが流行したことなどにより、次第に地域社会との関わりも薄れていきました。そのため、大学生になって、そのうえ東京という地元から遠く離れた地で再び地域社会の温かさを体験できてとても嬉しかったです。商品を購入していただいた方々と、沖縄トークで花を咲かせたことも、松陰神社祭での大切な思い出の一つです。これからも、物品販売を通して、寮の運営費を調達するだけでなく、様々な方に沖縄の良さを知ってもらいたいと思いました。（Y.H 東京大学1年）



新規入寮生(新しい仲間)が入寮しました。

沖英寮での生活は想像していたよりも快適で、個人の時間と寮生と共に行事に参加する時間が適度にあることで、充実した日々を送っています。人見知りなこともあります。はじめは気が張っていて不安も多くありました。明るく気さくな寮生たちのお陰で気楽に過ごせています。慣れない環境で頼れる誰かがいる寮生活は上京する学生にとってもってこいの場所だと思います。（K.S 上智大学4年）

後期総会11月25日火曜日



大清掃(後期総会の前に行いました)

前半の反省とこれからの意気込み

後期新役員の決定

就職内定者との集い②

寮生活を豊かにするには など
多くの意見が飛び交いました。

役員の特徴に「エイサー担当」があります。創作エイサー「島人の宝」、「ミルクムナリ」、伝統エイサー手踊りなどを各種祭りにて披露するとともに新入寮生に引き継いでいきます。



南灯寮祭では男子の演舞に合わせて、手踊りを披露しました。(南灯寮にて)

今回沖英寮は南灯寮と協力し南灯寮祭で沖縄の伝統芸能であるエイサーと手踊りの合同披露を行いました。沖英寮と南灯寮がそれぞれ役割を分担し力を合わせて披露することは、これまで代々受け継がれてきた寮の伝統行事です。コロナ禍の影響で一時は実施できなくなっていましたが、今年、8年ぶりに再開することができました。再開にあたって、沖英寮には手踊りの経験者がおらず、0からのスタートでした。そこで、新風エイサーの方々に手踊りを教わり、学んだことを寮に持ち帰り、寮の仲間同士で声をかけ合いながら練習を重ねました。完成度という点ではまだ課題もありますが、私の代でこの伝統行事をもう一度形にできたこと、そして東京という場所で同じ沖縄出身の学生同士が力を合わせて沖縄文化を発信できたことに大きな意義と達成感を感じています。(寮長O.R東洋学園大学3年)

↑ 簡単な文章で終えますが南灯寮生から手踊りをやってくれないかと提案され開始しました。新風エイサーの皆さん練習に数人で2度ほど参加させて特訓を受け、それを元に沖英寮生へも練習させるなど並々ならぬ努力と行動力です。今回は我々の沖英寮祭でのエイサー練習に加え、新たに手踊りの練習をテストやレポート、サークル活動、アルバイトを調整して忙しい時間をみんなで頑張ってきました。この沖英寮生の力を皆様に理解してほしいです。(寮監)



大クリスマス会(12月7日) 忘年会を兼ねて今年の反省、プレゼント、クイズ大会など

大クリスマス会を大々的に行いました。

プレゼントは新たなゲーム（例年bingo）で分けることにしました。

みんな楽しそうです。

会費の出費は大きいですが一堂に会して楽しい交流を持つことも寮生活の醍醐味だと考え4大行事の一つとしています。



準備してくれた新役員(1年生)

ゆとりの3年生(1年生もいます)

楽しんでいます(4年生)